

.研修会ヴェルディ・オペラ第3作目「ナブッコ」から第14作目「レニャーノの戦い」
(ヴェルディ・オペラと国家統一リソルジメント運動)

第13曲目「海賊」が終わり、今回の第14作目「レニャーノの戦い」(1849年初演)、これで国家統一リソルジメント運動と共に作曲された愛国的作品が終わる。ヴェルディ36歳であった。

しかし、ヴェルディは10作目「マクベス」(初演1847年)については、ずっと体内に棘が刺さっていて、終生、改訂版を作曲し直すことを考えていた。そして、その後、オーケストレーション(管弦楽作曲法)を研究、音の重厚さ、楽器の持つ音の色彩化の不足部分の補強をした。1865年改訂版をパリ・リリック座で発表し、大成功するのである。

ヴェルディは1839年26歳で第1作目「オベルト」を作曲、周囲の並々ならぬ支援によりミラノ・スカラ座で初演することができた。今までのイタリア・オペラ(ナポリ派)、歌主流からドラマを重視した音楽劇を生み出した。ミラノの新聞は彼の<詩を音楽に組み合わせる才能>を高く評価した。爾来10年の歳月が流れる。1849年1月、第14作目「レニャーノの戦い」を作曲、ローマ・アルジェンティーナ劇場で初演されたのである。観客は<Viva Italia!・・・Viva Verdi!・・・>を連呼、歓喜し、国家統一リソルジメント運動の場となり、劇場は大騒ぎに。大成功裡に終わった。この初演から10か月前、3月18日からミラノで<決起の五日間>が勃発している。

第3作「ナブッコ」(1842年初演)が、その時流に便乗、3幕2場で歌われる“わが想いよ、金色の翼に乗って・・・”失われた祖国への郷愁と哀惜の合唱曲と相まって、大成功裡に終わるのだが、二人の子供と妻マルゲリータ、家族が次々に、全員病気で亡くすと言う大悲劇がヴェルディに襲い掛かり絶望の淵に・・・人生のスタート台に立ったところで過酷な現実に翻弄される。その後、悲しみ、苦しみを乗り越え、作曲を終え、初演大成功したことを妻マルゲリータとヴィルジーニャそしてイチリオの墓前で報告をした。

第4作「イ・ロンバルディ」(1843年初演)でも聴衆を熱狂させ、統一運動を大いに盛り上げてゆく。4幕1場での祖国解放を願っての合唱曲“おお主よ、生まれ故郷の家から・・・”聴衆は異常な狂騒、熱狂ぶりで、ヴェルディはこの愛国的オペラ2曲で聴衆が何を求めているのか?ははっきりと分かって来た。しかし、これまでの作品の内にはリソルジメント運動とは関係ない作品も多々あるが、聴衆がヴェルディ=イタリア独立運動と、決め付けた。

ヴェルディは政治、宗教については普通の人であったが家族の死、そして国家統一リソルジメント運動を聴衆と共に、政治にも関与してゆく。又、カトリック教会に対し疑問を呈する。家族全員の死により、カトリック規範に基づく社会の風習に付いてゆけなくなり、神など信じられない!!それ以後の作品では、カトリック教会を意識した作品が多くなって来る。それらの中でも「運命の力」「ドン・カルロ」「オテッロ」等は堂々と批判、揶揄している。

*政治に関与

ここまでの作品により、聴衆(民衆)はヴェルディに対して念願の具現<イタリア魂 Italianita>を見て歓喜する。また後に、サルデーニャ王国カミッロ・ベンソ・カヴァール